

泉州国際市民マラソン 第18回大会 2011年(平成23年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 18th CONVENTIONS



2月20日 日

天 候: 曇り
気 温: 9.5℃
参加者数: 2,878人
完走者数: 2,227人
沿道人数: 25万人

一のすべてがこの応援を楽しみとしており中間地点で再び元気を取り戻すという。

尚、この年10月、空前のマラソン熱に応えるかのように、東京に続いて参加3万人の第1回大阪マラソンが始まった。



選手宣誓する安藤選手と田中選手

18回大会の男子は、34才の原田康二(広島陸協)が、終盤まで先頭集団が5人という混戦模様だったが勝負どころの35km付近の登り坂で一気に加速しそのままフィニッシュ。2時間21分23秒のタイムに「自分が勝って良かったのですかね」と喜んだ。女子は昨年優勝の田中千洋(アスレック RC)が15km手前で先行する招待選手の猪野祐貴(ノーリツ)を抜き去り、2時間38分07秒で2連覇した。大会前日のレセプションでの子供連れの夫婦姿がほほえましく輝いていた。

連続出場のシンガーソングライターの高石ともや(69歳)も25万人の観衆ににこやかに手を振りながら完走した。今年も忠岡や岸和田ではだんじり囃子の応援が繰り広げられ、選手を励ました。ランナ



先頭集団で力走する勇姿

写真提供: オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>

泉州国際市民マラソンを振り返る

熊取町長 中西 誠



第20回記念泉州国際市民マラソン大会開催おめでとうございます。平成6年、関西国際空港の開港を記念してスタートした本大会も回を重ねる毎に盛大になり、今では早春の泉州路を彩る風物詩として、すっかり定着してまいりました。

泉州国際市民マラソンを振り返りその20年を思い起こすと、大会イベントの企画等、多彩な取り組みをしていただき、参加する選手と沿道で応援される皆さんが一体となって大変盛り上がっているのを毎回感じています。

阪神淡路大震災で第2回大会は中止となりましたが、翌年の第3回大会では、泉州地域の更なる一体感を求め、極力各自自治体を走路に取り込むという

ことでコースが変更され、本町もコースの一部に加
わりました。しかしながら、当日は大会前夜からの
大雪のため、審判や補助員の皆さんでコース上の雪
かきをして大変だったと伺っています。

また、近年では平成 23 年、東日本大震災が発生し、大きな被害をもたらしました事は記憶に新しいことです。泉州国際市民マラソン大会においても何かできることはないかと、第 19 回大会、そして、この第 20 回大会は、東日本大震災で被災された地域復興への願いを込めて、チャリティマラソンとして開催されているところでございます。

結びに、これまで本大会運営にご尽力賜りました大会関係者、ボランティア団体、並びにご協賛いただきました企業の皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、9市4町が一つになって、広域行政の推進及び泉州地域の活性化と国際化が益々発展することを祈念いたします。



写真提供：オールスポーツコミュニティ
<http://allsports.jp/>



写真提供：オールスポーツコミュニティ
<http://allsports.jp/>



さつ。昨年男子5位の安藤真人選手と同女子1位の田中千洋選手が「力いっぱい駆け抜け、愛と信頼と友好



選手宣誓する安藤選手（左）と田中選手（泉佐野市のホテルで）

約3000人の市民ランナーが参加して20日開催される「第18回泉州国際市民マラソン」(読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援)。19日、泉佐野市のホテルで開かれた開会式には外国からの招待選手を含む約380人が出席し、互いの健闘を誓った。

実行委員長の和田吉衛・忠岡町長が「巨額のトレーニングの成果を発揮してほしい」と激励した。

泉州マリン
きょう号砲

海外招待選手ら健闘誓う

の輪を広げたい」と力強く選手宣誓した。

2011年(平成23年)2月20日付朝刊

泉州国際市民マラソンによせて

阪南市長 福山 敏博



今回、泉州国際市民マラソンを、節目となる20周年記念大会として盛大に開催できますことを心から喜ばしく思っております。

「泉州は1つ」という合言葉のもと、関西国際空港開港を記念して始まりましたこの大会は、泉州地域最大のマラソンイベントであり、今では泉州における早春の風物詩としてすっかり定着しております。回を追うごとに規模も大きくなり、今では国内外から約四千名のランナーが集まり、泉州路を駆け抜けます。長きにわたりこの大会が継続して来れましたのも、大会開催に多大なご支援とご協力をいただいております関係機関ならびに関係者の皆様のお陰であり、心より感謝申し上げます。

この大会は、国道旧26号を縦走するワンウェイコースということもあり、地元のたくさんのボ

ランティアや観衆の方々に見守られながら走ることができるので、親しみやすく、人のぬくもりが感じられる大会として、多くのランナーに人気のあるマラソンとなっております。42.195 kmを通じて、走る人、応援する人、大会を支える人のそれぞれの思いが、素晴らしい笑顔と感動のドラマを生み出しています。

また、昨年度からは東日本大震災の復興支援を目的にチャリティーマラソンとして開催しています。被災地は、震災から2年が経過しますが、いまだに復興の目途が立っていない状況です。この大会を通じて、様々な形でかわる皆さんが1つにつながり、被災地の方々に「元気」を届けられますことを願っております。

今後も、この泉州国際市民マラソンを契機として、一人でも多くの方々がスポーツの素晴らしさ、そして泉州地域の魅力に触れていただければ幸いです。泉州国際市民マラソンが今後に渡り、ますます発展してまいりますことを祈念し、私のご挨拶いたします。

声援支え 完走、好記録

泉州マラソン



一斉にスタートするランナーたち（泉市の京や公園で、一本松へ入りながら）

ランナーからは今回の経験を基に、10月に初開催される大阪マラソン（読売新聞社主催）への期待を込め、大阪の良さを再発見できよう」と今から待ちきれない様子だった。

今年自己ベストを更新した堺市西区のスポーツインストラクター・岡田有里さん（34）は、「ランナー同士でコミュニケーションを図りながら、前回は絶対に走れないコースを走らした。26%地点で足がつって棄権した高石市の安里昌雄さん（71）も「現金だった、大阪マラソンは朝服時間（7時前）も比較的長く、練習を兼ねて走りたい」と、大舞台での活躍を誓っていた。

走るぞ！大阪マラソン

今年自己ベストを更新した堺市西区のスポーツインストラクター・岡田有里さん（34）は、「ランナー同士でコミュニケーションを図りながら、前回は絶対に走れないコースを走らした。26%地点で足がつって棄権した高石市の安里昌雄さん（71）も「現金だった、大阪マラソンは朝服時間（7時前）も比較的長く、練習を兼ねて走りたい」と、大舞台での活躍を誓っていた。

2011年(平成23年)
2月21日付朝刊

沿道25万人、温かだんじり囃子



ゴール直前で子どもを得意かかえ、笑顔で完走したランナー（泉也野市のもんく公園で）

「アメどうぞ」

23%地点の泉城市内では、アメ入りのカゴを掲げた辻美奈さん（7）と妹の時愛さん（3）が、声をそろえて「食べてください！」一斉にアメを渡した。「ありがと！」と言ってもらえてうれしかった。でも声をだしてはダメだ、と自分でもほおばっていた。



沿道で水やアメを配るボランティア

沿道で水やアメを配るボランティアは、泉市や堺市、高石市など、沿道25万人の温かい声援が、ランナーを温かく包みこんでいる。沿道で水やアメを配るボランティアは、泉市や堺市、高石市など、沿道25万人の温かい声援が、ランナーを温かく包みこんでいる。

写真提供：オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>



スカイブリッジを力走するランナーたち

写真提供：オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>



あと2km 地点を力走



写真提供：オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>



写真提供：オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>



写真提供：オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>



女子で連覇した田中千洋＝拵田真也撮影

中津洋(女子は、紀勢参加)
が、時間36分4秒で連覇を果した。

■最後は独走
の田中は年間フルマラソンで、6回出場する41歳になる。6回出場する41歳のベテラン。時—1000
付近で走り抜けた特別招待選手(猪野佑太)のサポートを15分、手前で逆転し、独走でゴールした。1週前に腰の下を打ち、走り終えて痛みに、昨年のタイムを3分以上も縮めた。

【上り坂】一気に加速
経験者積み重ね

終盤まで先頭集団に5人が、絡み混戦を制した陳田は、「自分が勝てた良かったんですかね」と目を丸くした。多くの選手が勝負所に挙げた35分付近の上り坂で「一気に



男子で優勝した陳田

行けると主人が応援してくれるので、頑張ります」と笑顔を見せた。

に加連し、そのままゴールへ。右足のけがなどで、昨年未までの約半年間は満足な練習がでなかったが、

最後は34歳のベテランの勸がさへ、「(スパートは)今しかないと感じた。根性で走りきりました」。

2011年(平成23年)2月21日付朝刊



写真提供：オールスポーツコミュニティ
<http://allsports.jp/>

